

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【神田小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	少人数指導や課題別学習など、個人差に対応できる学習形態を学校全体で検討していく。定着を図るためのドリル学習やドリルパークの活用、一人ひとりの課題に合った学習に組み立てていく。1人1台端末を活用し、児童主体の授業を実践できるように、ICTへの理解と技能を高めるよう、教職員研修を行う。
思考・判断・表現	振り返りを生かして課題を立て、自らの言葉でまとめを書くことができる授業を全ての教科で実施し、児童主体の学びを目指していく。「自立して、協働する子育てる」をテーマにした学校課題研修で共有した手立てをさらに深める。つなぐ力を明確にし、必要のある課題設定、学習形態の工夫等、学習計画をしっかりと立て授業を行っている。また、引き続き、読書活動の充実を図っていく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 児童間において、前学年や前単元の学習内容の定着や習得状況に差が見られる。 <指導上の課題> 児童一人ひとりの学習状況に合わせた反復・習熟の時間や機会の設定が不十分である。	・単元の最初や途中で、前学年や前単元の内容を復習する時間や機会を設ける【毎単元】。 ・単元の後半に、習った学習内容を活かす時間や機会を設ける【毎単元】。 ・児童が自分の学習状況に合わせて「ドリルパーク」等を活用する時間や機会を設ける【毎単元】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 自分の考えを表現することに苦手意識がある児童の割合が多い。 <指導上の課題> 児童一人ひとりの学習活動の機会を十分確保する必要があり、個人差が大きい。	・学習活動や過程を明確にし、個人で取り組む時間を確保して、促進を促して学習できるようにする【毎単元】。 ・指示や発問を工夫し、ねらいを達成するために児童が自ら考え、協働しながら活動できる授業を実施する【毎時間】。 ・友達に話すことや書くことがしなくなる教材開発や活動のバリエーションを豊かにする【毎単元】。

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	・単元の最初や途中で、前学年や前単元の内容を復習する時間や機会を設けた。 ・単元の後半に、習った学習内容を活かす時間や機会を設けた。個人差が大き、定着を図るまでに至らない児童も多く、個人差への対応に課題がある。 ・児童が自分の学習状況に合わせて「ドリルパーク」等を活用する時間や機会を設けた。
思考・判断・表現	B	・学習活動や過程を明確にし、個人で取り組む時間を確保して、見直しをもって学習できるようにした。 ・ねらいを達成するために児童が自ら考え、協働しながら活動できるような授業を工夫した。指示や発問を工夫するために教材研究の時間を確保することが課題である。 ・友達に話すことや書くことがしなくなる教材開発や活動のバリエーションを豊かにするようとした。

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、漢字を文中で正しく使う問題に課題が見られた。漢字を活用する時間の確保が必要である。算数では、数直線上に示された数を分数で書く問題やばかりの目盛りを読み取る問題、円形を導く問題において正答率の低さが顕著となった。分数や小数の単位を捉えたり、1目盛りに着目して数値を読み取るたりすることや図形の性質について理解することに課題がある。児童間からもわかるように、算数に苦手意識をもっている児童が多い。一方で授業に対して肯定的に捉え前向きに取り組んでいる。今後も児童主体の個別最適な学びを進めることができるよう、教職員の研修を積んでいく。
思考・判断・表現	国語では、「読むこと」に関する問題で正答率が低くなった。算数では、数量関係を式に表したり、式や言葉を用いて説明することに課題が見られた。問題を読み取れず、解答の仕方がわからなかったと予想される児童も多かった。児童間からは、読書の楽しみや読書に対する課題があった。児童間「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っています」の質問に対する肯定的な回答の割合は高い。今後も、引き続き授業の工夫をしていくとともに、読書量を増やす取り組みを考えていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	全ての学年・教科において、市平均と比べると「知識・技能」に大きな課題がみられる。算数では、数と計算の領域の正答率が市平均より大きく下がる。算術事項「算数の領域」は好ましくない。これに対して肯定的な回答は市平均より高いが、「算数の授業の内容はよくわかります」に対しては肯定的な回答が市平均より低くなる。「国語の授業の内容はわかりますか」も同様に低い結果となっている。引き続き、授業の工夫をし、わかる授業を目指していく。また、知識・技能の定着を図るための時間の確保や個人差への対応、主体的に学ぶ工夫をさらに考えていく。
思考・判断・表現	全ての学年・教科において、市平均と比べると「思考・判断・表現」に大きな課題がみられる。国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域のうち、学生によって特に苦手の領域が異なっていた。算数では、「図形」に関連して「データの活用」の領域で市平均を大きく下回っている。「自立して、協働する子育てる」をテーマにした学校研修で共有した手立てを生かし、自分で考え実践できる力を伸ばしていく。また、質問事項「読書は好きですか」に対して肯定的な回答が市平均より高い。引き続き、読書活動の充実を図っていく。

③	中間報告	中間期見直し	
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	・単元の最初や途中で、前学年や前単元の内容を復習する時間や機会を設けている。 ・単元の後半に、習った学習内容を活かす時間や機会を設けることに課題がある。 ・児童が自分の学習状況に合わせて「ドリルパーク」等を活用する時間や機会を設けている。	変更なし
思考・判断・表現	B	・学習活動や過程を明確にし、個人で取り組む時間を確保して、促進を促して学習できるようにする。 ・指示や発問を工夫して、ねらいを達成するために児童が自ら考え、協働しながら活動できる授業を実施するようになっている。 ・友達に話すことや書くことがしなくなる教材開発や活動のバリエーションを豊かにするようになっている。	左記の手立てを実施するとともに、読書活動の充実を図る(10月～読書月間の実施)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【神田小学校】

学力向上アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)主体的に学ぶことができる資質・能力 (2)協働して学ぶことができる資質・能力
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)課題を明確にし、繰り返しや選択によって学習の見直しもてる授業の実施。また、自分の学び方について振り返ることができる時間の設定。【単元導入・単元末】 (2)課題解決の過程における必要感を大切にしながら学習形態を工夫し、友達と考えを伝え合い、話し合い、助け合う時間を設定。【各単元の中で1回以上】

⑤	年度末評価
学力向上策の実施状況	評価(※) 1.結果分析(管理職・学年主任等) 2.詳細分析(学年・教科担当) 3.分析共有(児童生徒比・家庭訪問)
今年度の成果と次年度の課題	

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
結果から考えられる児童生徒の実態	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価
学力向上策の実施状況	評価(※) 1.学校全体での取組 2.単元導入・単元末 3.分析共有(児童生徒比・家庭訪問)
学力向上策の見直し	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)